

健康危機兆候の モニタリング

地球温暖化や環境汚染などに伴う環境リスクの増大、およびSARS(重症急性呼吸器症候群)や新型インフルエンザなどの新興感染症の続発に見られるように、豊かな生態系や人々の健康を脅かす様々な危機事象が、最近、顕在化しています。

地域保健の分野でも、21世紀の幕開けとともに「健康危機管理」という行政用語が登場し、今では保健所の重要な機能に位置付けられています。

健康危機管理では、危機発生 of 未然防止と潜在的リスクへの事前対応が重要とされています。そこで、わが国では厚生労働省だけでなく、環境省や文部科学省、国土交通省など多くの省庁および研究機関等が連携して、健康に関わる様々な危機事象の早期把握や予知等を目的とした、監視あるいはモニタリング調査が実施されています。

そこで本特集では、人々の健康に直接影響を及ぼす危機事象(感染症など)および間接的に影響を及ぼす危機事象(環境化学物質、環境汚染など)について、その兆候を捉える取り組み(各種のモニタリング事業など)に焦点を当て、それぞれの意義や方法論、およびこれまでの成果と今後の展望について、幅広い視点からまとめいただきました。また、健康危機兆候の早期把握や解析に役立つ情報管理技術の活用、および行政統計リンケージのあり方などについても取り上げてみました。

イラストレーション/丹沢裕子

